



さつき野学園  
進路通信 No.3  
平成29年5月18日




知っていますか？高校入試


# 解説編



## ☆私立入試について

1	<p><b>大阪府以外にある私立高校を受験することはできない。 → × できませんよ</b></p> <p>府外の私立高校を受験することはできます。ただし、大阪府の私立高校は、兵庫県と京都府の私立高校と同じ受験日となっていますので受験できません。奈良県か和歌山県なら可能です。しかし、願書の作成や提出など受験のための準備や受験等で負担になることがあります。</p> 
2	<p><b>私立高校受験では、直接、高校に志願書をもらいに行く必要がある。 → ○ 自分で</b></p> <p>大型公共ホール（会館）での複数の学校が参加する合同説明会などでもらえる場合があるかもしれませんが、受験する高校を自分で訪問して、志願書をもらうことは大切です。実際に行ってみることで、高校までの交通経路や手段、その所要時間を体感として知ることができます。また、学校の雰囲気や生徒の様子など、実際の訪問でないと、分からないことも多くあります。志願書をもらえるのは、11月以降になります。</p>
3	<p><b>私立高校の専願と併願受験では、合格基準点が異なる。 → ○ 違うんです</b></p> <p>専願は合格すれば、必ずその高校へ入学することを約束して受験するので、専願受験生の合格基準点は、一般的に併願受験生のよりも低く設定される傾向があります。</p>
4	<p><b>専願・併願にかかわらず、合格発表後すぐに、手続きを済ませ入学金を納めなければならない。 → × 併願生は公立の合格発表まで大丈夫</b></p> <p>併願受験生は、入学金の納入期日が公立一般選抜の結果発表の当日、または、その数日以内に設定されています。よって、一般選抜が不合格であったときは、私立高校の入学手続きを速やかに済ませましょう。</p>
5	<p><b>面接試験がない私立高校受験するときは、服装・身だしなみをあまり気をつける必要はない。 → × 面接がないからこそ、あらゆる場面が面接です</b></p> <p>受験生のその人となりが見られるのは、面接試験の場だけではありません。志願書を提出するとき、テストを受けているときやその合間の休み時間など、さまざまあります。きとんとした身だしなみや言葉遣いを普段の学校生活から意識しておくことは言うまでもありません。</p>

## ☆公立入試について

1	<p><b>大阪府以外の公立高校を受検できる。 → × 住所がある府県のみです</b></p> <p>原則として受検はできません。しかし、特別な例として、府外への転居の予定があるときや府内にない学科（水産科など）を設置している高校を強く志望するときは、この限りではありません。</p> 
2	<p><b>当日のテスト頑張れば調査書は関係ない。 → × 調査書は大事です</b></p> <p>テストと調査書の割合は高校によって、3：7から7：3まで決まっています。テストの割合が大きいとしても、同じレベルの受験生が集まっていますので、テストで挽回するのは容易ではありません。調査書のよくない人は、落ちる確率が高いです。</p>
3	<p><b>公立高校選抜では、受検料は必要ない。 → × 必要です、安いけどね</b></p> <p>必要です。ちなみに、平成29年度の全日制高校の検定料は2200円でした。</p>
4	<p><b>特別選抜で、ある専門学科の高校を合格したが、普通科高校へ進学希望が変わったときは、一般選抜で別の普通科高校を受検できる。 → 合格したら決定です</b></p> <p>公立選抜は、特別・一般選抜とも専願のみです。つまり、受験して、<b>合格したら必ずその公立高校に入学しなければなりません。</b></p>
5	<p><b>公立高校を受検するときは、高校生活の抱負などについて作文した“自己申告書”を全員提出しなければならない。 → ○ これで合否が判定されることも</b></p> <p>全員提出しなければなりません。毎年、大阪府教育委員会よりテーマが提示されます。 例：中学校3年間で何を学んだか。また、それを高校でどう活かしたいか。 3年後の自分を想像してみる。</p>
6	<p><b>公立高校を合格したが、「私立高校へ入学したい」と気持ちが変わったときは、併願で合格した私立高校に入学できる。 → × 私立併願から専願の変更は可です</b></p> <p>Q4の解説参照。</p>
7	<p><b>普通科の高校は、さつき野が位置する大阪府南東部近辺の高校しか受検できない。 → × 府内161校どこでも受検可です</b></p> <p>専門学科だけでなく、普通科設置高校も、平成26年度選抜より大阪府内のどの高校も受検できるようになっています。</p>

### 調査書の評定 = 5段階の絶対評価

公立高校の合否の参考資料となる、調査書に記載される各教科の**評定(内申点)は、平成28年度選抜より目標に準拠した評価(絶対評価)による5段階評価**に変わりました。  
原則、**中学校1年～3年までの評価**がその対象となります。

